

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士見市立みずほ学園		
○保護者評価実施期間	令和8年2月10日		～ 令和8年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	令和8年3月2日		～ 令和8年3月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 15人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・手厚い職員配置によるきめ細やかな療育。	<ul style="list-style-type: none"> 職員配置を2対1（児童2人に対して保育士や児童指導員を1人配置）とし、児童の安全を保障すると共に、個々の児童に合わせたきめ細やかな療育を実施している。 クラス担任間、また、クラスの垣根を超えた全体の職員間での情報共有を密に行い、個々の児童への支援にあたっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、職員間の情報共有や連携を図れるよう、話し合いの時間を組織的に調整していく。 研修に積極的に参加し、個々の職員がスキルアップを図っていく。
2	・家庭との連携や保護者支援を大切にした療育。	<ul style="list-style-type: none"> 低年齢児や新入園児の場合は親子通園を実施し、保護者の不安に対して助言をしたり、子どもとの関わり方を学んでもらったりしている。 日々の連絡帳を通して園と家庭それぞれでの子どもの様子や成長を伝え合う他、個人面談や電話連絡などで保護者の相談にのり支援を行っている。 定期的な保護者会、講演会、懇談会等を通して、保護者が学べる機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保護者同士のつながりを深め、支え合える仲間作りができる機会を設けていく。 保護者のニーズにあった学習を提供できるよう、講演会等の内容を検討していく。
3	・様々な専門職と連携した療育。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士の専門職を配置し、個別な支援だけでなく、専門職と指導員との連携を密にし、日常の療育に活かすようにしている。また、専門職から直接保護者に助言を行い、家庭での子育てに活かすようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き専門職との連携を密にし、指導員のスキルアップを図って日常の療育につなげていく。また、専門職を交えた内部研修の機会を充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員の勤務時間の違いにより、職員間のコミュニケーションが不足してしまうことがある。	・短時間勤務の職員もいるため、児童の登園前、当園後の時間の職員間の話し合いが十分にできないことがある。	・クラスごと会議の曜日を決め、他のクラス職員に協力をしてもらいながら、会議の時間をしっかり確保していく。
2	・きょうだい支援が十分にできていない。	<ul style="list-style-type: none"> きょうだいに参加できる行事が限られている。 きょうだいに特化した事業を行うことは体制上難しさがある。 	<ul style="list-style-type: none"> きょうだいに参加できる行事について検討していく。 行事の中で、きょうだいに参加し交流できる取組みについて工夫していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	富士見市立みずほ学園
------	------------

公表日 令和8年 3月 31日

利用児童数 28名

回収数 22名 (児童22名)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	18	2	1	1	・手厚く見てもらえていると感じる。 ・安心して園生活を送れています。	・子ども達が安全に且つ楽しく過ごせるよう、引き続き適切な人員配置に努めてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	1		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	1			・子どもがやりたい活動をさせてもらっている。 ・考えてくれていると思います。 ・すごくきれいだないつも思っています。	・引き続き、適切な療育ができる環境づくりに努めてまいります。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1			・連絡帳でとても伝わってくる。 ・心配な事など相談にのってくれます。 ・STの回数を増やしてほしい。せめて月1回くらい。	・引き続き、お子さんの特性に応じた専門性のある支援を行ってまいります。 ・STの回数については園児の人数により変動がありますが、効果的に実施できるよう回数や内容などを工夫に努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22				・たくさん話を聞いてくれます。	・今後もお子さんのことを十分に理解し、発達状況に合った個別支援計画を作成してまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1		1		・個別支援計画は、児童発達支援ガイドラインに沿って、個々のお子さんに合わせた具体的な支援内容を設定し、保護者の方にご理解していただけるよう、わかりやすい説明に努めていきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	2				・今後も児童発達支援計画に沿った支援を行い、わかりやすく保護者の方に説明してまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	1		1	・よくわからない。	・活動プログラムが固定化されないよう、様々な活動を工夫しながら取り組んでいきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	1	1		・他のお友達と交流できてとても良いと思います。 ・保育所交流はとってもいい刺激になったと思います。お友達が来てくれたり、そういう機会は本当にありがたいです。	・引き続き、保育所交流や幼稚園交流、みずほ交流（みずほ学園に保育園児が来る交流）を実施し、相互の交流を図っていきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	1				・入園時の説明や保護者会等の機会に説明を行っていますが、よりわかりやすい丁寧な説明に努めてまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22				・面談時にとっても丁寧に説明していただき、とてもわかりやすかったです。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21	1			・他ではなかなか聞けなかったり、調べても理解が難しい内容をわかりやすく教えていただき嬉しかったです（心理士の話、進路、福祉についてなど）。	・今後も、保護者の方に有益な学びの場を提供できるよう、研修会や先輩保護者との懇談会等を実施してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	1			・連絡帳でのやり取りで、お話できることがとても良かったです。 ・連絡帳などでできていと思う。 ・連絡ノートで子供の様子がわかってとても助かります。 ・かなり細かく連絡帳を書いてくださるので、園での様子が知れて嬉しいです。	・家庭との共通理解が重要であると考えておりますので、引き続き、きめ細かな情報交換ができるよう努めてまいります。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	2			・親子通園が定期的にあることが、子育てについて相談させていただくのにとても良い時間となっています。 ・押しつけがましくなく、私が相談したことに親切にアドバイスをいただきます。	・引き続き、保護者の方の不安や悩みに寄り添いながら、適切に助言ができるよう努めてまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22				・保護者（私）のことを否定せずに、いつも悩みに寄り添っていただけていると感じています。 ・一緒に成長を見届けてくださり、成長と一緒に喜んでくれます。 ・良くしていただいています。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	4	1		・他の家庭のお話が聞けて参考になりました。	・父母会や保護者会を通して保護者同士の交流ができるよう支援していきます。兄弟についても、交流の機会を増やせるよう検討してまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	3				・ご家族からいつでもご相談をいただける体制を取っていますので、そのことを丁寧に周知していきたいと思えます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20			2	・忙しい中丁寧に連絡帳を書いてくれるので本当に嬉しいし、助かっています。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	1	2	1	・よくわからない。 ・みずほ学園のホームページを定期的に更新してくださり、子ども達の活動を写真を通して見れるのはとても嬉しいです。	・定期的なクラスだよりや行事予定表などの他、今年度からホームページでの情報発信も工夫してきました。引き続き、情報の発信に努めてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22				・厳しくされていると思う。 ・留意してくださるのは良いのですが、父母会で必要な情報は教えていただかないと父母会が回らないので教えてほしいです。	・個人情報の保護に留意しながら、父母会が必要とする情報について提供できるよう協力を図ってまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21	1				・非常時に備えた様々なマニュアルについて、よりわかりやすく説明を行ってまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21		1		・定期的に避難訓練が行われているため、子どもがスムーズにできていると思います。	・引き続き定期的な避難訓練を実施し、災害時に備えていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	2				・子どもの安全のための計画について、より丁寧に保護者の方へ説明を行ってまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	2			・ちょっとした怪我でも伝えてもらっている。 ・連絡ノートまたは口頭で必ず教えてくれます。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22				・楽しんで通えています。 ・とても大好きな場所であり、楽しく安心して過ごしています。 ・先生もお友達も好きで安心している。 ・子どもは先生方のことをとても信頼し安心してみずほで過ごしています。	・引き続き、子ども達が安心して楽しく通える環境作りに努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22				・楽しんで通えています。 ・とても大好きで、いつも楽しく活動内容を教えてくれます。 ・いつも通所の日を確認しながら心待ちにしている。 ・お休みの日もみずほに行きたいと言って、楽しみに登園しています。 ・みずほ学園が大好きで、楽しく通所しています。いつも本当にありがとうございます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	3			・本当にたくさんのことができるようになりました。私自身とても助かりました。ありがとうございました。 ・子どもも親も満足している。 ・自分の子供に合った療育で、大きく成長できたことを嬉しく思います。	・今後も子ども達の成長を促せるよう、家庭との連携を大切にしながら取り組んでまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	富士見市立みずほ学園		公表日 令和8年 3月 31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	1	・基準以上のスペースを確保している。 ・ホール等の使用について、クラス間で調整して利用している。	・今年度は指導室に空きがあったが、年によっては機能訓練を行う部屋が足りないこともある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	3	・基準以上の人員を配置している。 ・その時の人員体制に応じて、クラスの垣根を越えて職員を配置している。	・経験年数等を加味したクラス編成等により、正規職員と会計年度任用職員の配置状況が異なるため、バランスに配慮した人員配置に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	2	・毎朝始業前の掃除、日課に合わせた環境設定を行い、子ども達の活動に合わせた空間づくりを行っている。	・肢体不自由児が立位を取りやすくなるよう、子どもの手洗い場に手すり等、身体を支えられる設備について検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	1	・毎朝全職員で園舎内を清掃し、床なども清潔にしている。おもちゃの消毒も行っている。 ・子ども用トイレの寒さ対策として、温風ヒーターを設置した。	・子ども用トイレにエアコンがないため寒かったり暑かったりする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15		・子どもが静かな環境で気持ちを落ち着かせたい時などは、状況に応じて部屋を移動したりしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13	2	・年間において、年間計画、中間反省、年間反省を行い、全職員の会議で目標設定や評価を行っている。	・参画について正規職員と会計年度任用職員に差があるため、会計年度任用職員もより積極的に参画できるとよい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		・保護者向け評価表の内容を会議において報告し、全職員が把握してその後の業務につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	3	・職員の意見は全体会やクラスチーフ会議で共有し、業務改善につなげている。	・職員の意見を出し合っているが、業務改善につながっていないところもある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	5		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		・研修の情報は職員間で共有し、会計年度任用職員も含め、全職員が研修の機会を得られるようにしている。 ・子どもの発達や遊び、医療ケア児に関する研修など、様々なジャンルの研修を受講できた。 ・園児に直接関わっている園のSTやPTによる研修は、実践に繋がり大変勉強になった。 ・外部の研修に参加した際は、研修報告会を設け、他の職員に還元するようにしている。	・研修の受講機会は確保されているが、参加の頻度や積極性については個々の職員により差がある。(自主的な研修参加がもう少し増えると良い。)
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	1		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15		・繰り返しクラス会議を行いながら、支援計画について検討を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15			・クラスでは共有されているが、他のクラスの職員とも共有できているとは言いきれない。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	2		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15		・個別支援計画の内容について、子どもの状況に合わせて適切な項目を設定できるよう、職員間の情報共有や意見交換を密に行ってきた。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	2		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	1	・日々の活動内容が子ども達に合った内容になるよう児発管が声をかけている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	2	・毎朝全体の打ち合わせを行う他、クラス毎やカリキュラム担当などで必要な打ち合わせを行っている。	・日によっては人員体制やスケジュール等の都合でクラス会議を開催できないこともあったため、個々の子どもの課題や活動のねらいを共有できる時間を組織的に設けるとよい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	1	・原則、毎日全体での反省会を行っている。 ・短時間勤務の職員にとっては当日の振り返りは難しいため、週1回クラス会議で話し合っている。 ・毎日必ず振り返りができる訳ではないが、気付いた点はクラスチーフに伝え、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15			
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15		・定期的な会議に参加して連携を図っている 他、必要に応じて連絡を取り合い連携や調整を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15		・併行通園においては併行先施設への訪問を必ず行い、連携して子どもの支援に当たっている。保護者との情報共有も行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15		・依頼があった学校に限られているが実施している。 ・今年度、試行的に就学先の小学校に対し、個別支援計画を提供することで、情報共有と相互理解を図った。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	12	1		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	14			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	14		・富士見市の障がい者施策推進協議会（全体会、部会）、事業所連絡会、早期療育会議等に参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	13		・保育所や近隣幼稚園と定期的な交流を実施している。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15		・低年齢クラスや初めての園生活の場合は親子通園期間を設け、家庭との連携を密にしている。 ・特に親子通園に関しては直接話し合うことができている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	1		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	1	・入園前の説明会や年度初めの保護者会等の機会に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15		・日常的には連絡帳を活用して助言を行い、必要に応じて電話で連絡を取っている。また、定期的な個人面談の他、随時面談を実施し保護者の相談に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	1	・運動会や秋まつりなどの行事は家族での参加を奨励し、保護者同士やきょうだい同士の交流の機会を持てるようにしている。 ・必要に応じて、父母会(父母の自主組織)との話し合いの機会を設けている。	・きょうだい支援は多くはなく、課題がある。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15		・直接すぐに会えない場合は、連絡帳や電話等を活用し、相談に迅速に対応するほか、別日を設けて面談を行うようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	1	・毎月の予定表やクラスだより、園だよりを発行する他、今年度はホームページを頻繁に更新し、情報発信を積極的に行ってきた。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	1	・個人情報について職員間で常に意識し、園舎の掲示物や発行する文集の内容なども留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	1		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	5	・地区民生委員の視察を積極的に受け入れている。 ・行事の際、卒園児に声かけを行い交流を図っている。	・立地条件により地域住民との交流は難しい状況だが、地域との交流のあり方について検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	1	・毎年、年度初めに全職員で確認をしている。	・保護者にも周知しているが、大まかな説明になっているため、わかりやすい説明の仕方を検討していく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15		・毎月の避難訓練の他、保護者への引き渡し訓練、水害想定のパスでの避難訓練を年に1回実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15		・持病や服薬状況、アレルギー等について入園時に健康カードに記入してもらい、在園児も変更がないかを毎年年度初めに確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	1	・事案があった場合は毎日の反省会の中で必ず報告と再発防止のための検討を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	1	・虐待防止のための委員会と研修を定期的実施している。	

	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13	2	・身体拘束適正化のための委員会と研修を定期的に実施している。	
--	---	----	---	--------------------------------	--